

進路だより Vol.2

栃木県立佐野松桜高等学校
進路指導部
平成 26 年 11 月 21 日

1 就職状況について

(1) 今年度の求人状況

下表 1 は、過去 5 年間の本校に対する求人の推移を表しています。平成 26 年度は 10 月 31 日現在のデータです。平成 20 年度以来、求人が減少してきましたが、23 年度から景気回復の兆しが見られるようになってきました。今年度も、昨年度以上の求人をいただいております、特に地元・佐野市管内の事業所からの求人が、ここ 2 年で大幅に増加しました。

職種別では、事務職の若干の増加がみられました。製造職やサービス職（福祉関係）の求人増加が顕著であり、現在も募集が続いています。

表 1 過去 5 年間の
求人への推移

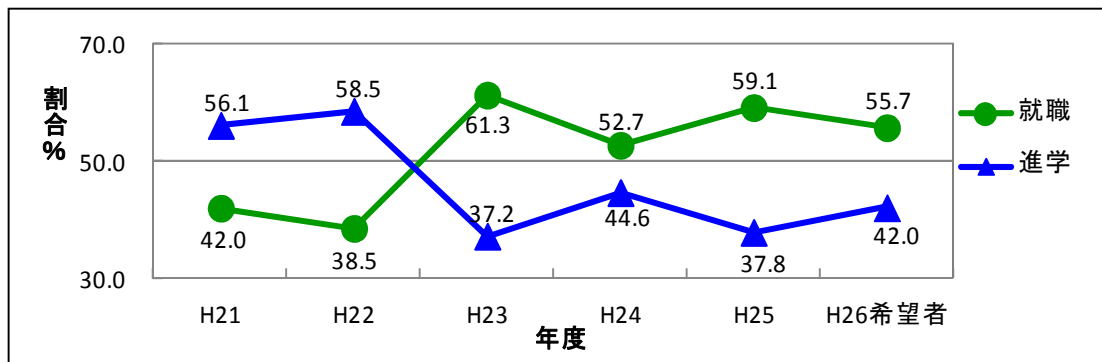
	H22	H23	H24	H25	H26
佐野管内	54	55	55	70	83
栃木県内	77	80	84	94	112
県 外	71	86	81	114	127
合 計	202	221	220	278	322

(2) 求職の状況

平成 22 年度までの学校推薦による就職希望者数は 70 名前後で進学希望者数を下回っていましたが、23 年度より 100 名を超える生徒が就職を希望するようになりました。今年度は生徒全体の 55.7%にあたる、122 名が就職を希望しました。就職希望者の少なかった家政科を除く 3 つの学科では、就職希望がそれぞれ 62%前後と高くなっています。それぞれの学科の生徒も、学校の専門教科で培ったことを活かせる職業を望む割合が非常に高く、その夢を叶えているようです。

逆に、求人が多くなったために、迷って会社を選べない生徒や、会社の規模やネームバリューだけで選んでしまう生徒も目立った年でした。自分の特性を知った上で会社を選ばないと、早期離職の可能性も出てきますので注意したいものです。

表 2 進学者と就職者の割合の推移



(3) 就職内定状況

表 3 は、現 3 年生の就職内定状況（10 月 31 日現在）を表しています。（ ）内の数字は、公務員や自己開拓・縁故による就職希望者数を表しています。1 回の試験で内定を頂けなかった生徒も出ていますが、25 度に引き続き栃木県内の他の学校と比較をしても、非常に高い内定率となりました。

参考までに、県内 9 月末の高校生の就職内定率は 55.9%（栃木労働局調べ）で、本校は 73.9%でした。

	受験者数	内定者数	未決定者数	学校推薦内定率
男子	57 (2)	57 (1)	0 (1)	100.0 %
女子	60 (2)	57 (2)	3 (0)	95.0 %
合計	117 (4)	114 (1)	3 (1)	97.4 %

表 3 3 年生の就職内定状況

2 進路に関するアンケート結果について

(1) 就職受験アンケートより

平成21年度～25年度に卒業した3年生のうち学校推薦で就職受験をした生徒485人を対象に、アンケートをとり、その結果をまとめてみました。

3年間の欠席日数が少ない生徒は、早い段階で内定が出て、欠席の多い生徒は進学等への変更を余儀なくされる確率が高くなっていることがわかります。また、部活動を3年間続けた生徒は、早期内定の確率が高く、一度失敗をしても粘り強く就職活動を継続して遅くなくても内定を頂いています。

(a) 欠席日数と
受験企業数の関係



	1社	2社	3社	4社	5社以上	内進路変更	進路変更率
0日	164	16	3	2	0	4	2.2
1～9日	208	25	11	2	0	5	2.0
10～19日	23	6	1	0	1	1	3.2
20～29日	8	2	0	0	0	1	10.0
30日以上	9	2	2	0	0	2	15.4

(b) 部活動と内定月
の関係

	9月	10月	11月	12月	1月以降	進路変更	9～10月内定率
最後まで活動	220	53	13	1	2	7	92.2
途中で辞めた	34	20	5	3	1	2	83.1
やっていない	71	37	6	6	0	4	87.1

(2) 進路の悩みに関するアンケートより

1年生、2年生を対象にアンケートをとりました。1・2年生共に「自分の能力や適性を知っている」生徒が少なく、「自分に合っているものがわからない」生徒が多いという結果が出ました。また、希望進路に対して「学力が足りないかもしれない」と不安に思う生徒が7割を超えたにもかかわらず、「勉強への意欲がわからない」と答えた生徒が、6割近くに達しました。

進路相談については、「希望進路を家の人は知っている」の問いでは、2年生(80.3%)・1年生(70.6%)、「進路について家の人とよく話をする」では、2年生(54.8%)・1年生(39.4%)となりました。2年生は、進路意識を持ち始めたことがうかがえます。

3 進路室から

(1) 進路の決定時期について

今年の3年生の状況を見ていると、全体的に動き出しが遅かったように思えます。進学希望者では、学校決定が遅くなる生徒が多く、選考会議を複数回行いました。出願書類の提出が、大学等の締め切り間際という事例も何件もありました。就職希望者では、「やりたい仕事」で会社を選ぶのではなく、「とりあえず職場見学で(複数社)見てきてから」選び始めるという生徒も目立ちました。また、面接練習の開始も遅くなり、その結果、練習も満足に行わないで試験に臨んだ生徒も増えました。

このように時間的な余裕がなくなると、失敗する確率も高くなります。2年生になる前に「就職か進学か」を、3年生になる前に「職種や学部・学科の選択」ができることが望ましいと思われます。

(2) 医療看護系の学校への進学希望者へ

ここ数年、全国的に医療看護系の学校を希望する生徒が増え、試験の受験倍率も高くなっています。また、教育機関も、専門学校や短大から「四年制大学」へ移行しつつあります。このため、本校では昨年度から「医療看護模試」を年に2回、2年生と3年生の希望者を対象に実施しています。医療看護に少しでも興味がある生徒は、積極的に受験するようにしてください。

(3) 就職試験の傾向

高校生の就職試験では面接が最重視されていますが、最近では筆記試験の中で「作文」や「SPI検査」「YG検査」といった適性検査を重視する企業も増えているようです。また、規模の大きい企業の筆記試験は、内容が難しくなっている傾向にあるようです。普段から、基礎学力を高める努力をしましょう。また、学校では作文対策指導も行っていますが、普段から「書くこと」や「文章読解」にも力を入れるようにしましょう。